

接続期（前期）

生活の中できまりをつくったり変えたりすること、役割を考えることで生活をより良くしようとする

5歳児 1月

「ヒコちゃんからでいいよ」

幼児の姿	内容とのつながり 及び 関連する <u>幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿</u>
<p>今日の朝の集いの司会は青グループ（リコ、カタ、テツ、ヒコ）であり、テツはまだ登園していない。司会は一人ずつ話す約束になっており、誰から言うか順番をめぐってヒコとリコで言い合いになった。</p> <p>リコ 「こっちからだよ」 ヒコ 「いつもこっち（ヒコのいる側）から言ってるよ」</p> <p>間に挟まれたカタが控えめに声をかけた。 カタ 「こっちから（ヒコのいる側）からだと思うよ…」 リコ 「そんなこと決まってないよ」 ヒコ 「でも、昨日の赤グループもこっちからだったよ」 リコ 「赤グループは関係ないよ」</p> <p>だんだんリコの顔が怒った表情になり、ヒコに詰め寄った。ヒコは声を出さずに泣き出した。前の方に座っていたウツ、キョウ、ジュンが3人で顔を見合わせながら、呆れた表情で二人に聞こえるように言った。</p> <p>キョウ 「喧嘩しなくてもね」 ウツ 「泣くほどのことでもないよねえ」 ジュン 「うん。喧嘩をしなくても決められるのに…」</p> <p>3人の声を聞いてヒコは泣き止もうと涙を拭いた。リコもそれ以上ヒコに言うのはやめて、ヒコの側で立っていた。待ちきれなくなったスズが時計を見ながら口を挟んだ。</p> <p>スズ 「遊ぶ時間短くなる…」 ユヅ 「そうだよ。早く決めて」</p> <p>2人の言葉を聞いたリコは始めの場所に戻り、ヒコに向かって言った。 リコ <u>「ヒコちゃんからでいいよ。次はカタくん、その次リコね。その次ヒコちゃん、カタくん、最後リコね。」</u></p> <p>順番の確認をして、ようやく朝の集いが始まった。途中で登園が遅れていたテツが入ってきた。最後の言葉をリコが言おうとした時、キョウがテツの存在に気づいて言った。</p> <p>キョウ 「テツくん言ってないし、テツくんが言ったら」</p> <p><u>リコは、自分の順番なのにと一瞬唖然とした表情になったがすぐに</u> リコ <u>「テツくん、言ってもいいよ」</u> <u>とテツに向かって言った。</u>テツの言葉を最後に朝の会はようやく終わった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 司会をどんな順番で話すか、ヒコの様子や周りの友達の様子を見て、状況を考えてその日の話すルールを決めている <p style="text-align: right;"><u>自立心</u> <u>道徳性・規範意識の芽生え</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の気持ちを考え自分の気持ちに折り合いをつけながら、決めたルールを状況の変化に応じて変更することで、朝の会をスムーズに進めようとしている <p style="text-align: right;"><u>自立心</u> <u>道徳性・規範意識の芽生え</u></p>